

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の利用目的及び利用方法》

●研究の名称

当院での前立腺癌に対する中等度寡分割照射と通常分割照射との成績比較

●研究の対象

2016年4月11日から2024年2月15日に京都第二赤十字病院 放射線治療科において、限局期前立腺癌に対して放射線治療を受けられた患者さんを対象とします。

●研究の目的

限局期前立腺癌に対する放射線治療は、外科的治療と同等の治療効果を有する、重要な治療選択肢の一つです。中でも、強度変調放射線治療（IMRT）は、腫瘍への線量を高めつつ、正常組織への影響を抑えることができる治療法として広く用いられています。一方で、IMRTは通常8週間にわたる治療期間を必要とし、高齢の患者にとって身体的・時間的負担が大きいという課題がありました。

近年、1回あたりの線量を増やし、治療期間を4～5週間に短縮する「寡分割照射法」の有効性と安全性が、従来の照射法と比較して劣らないことが示され、注目されています。日本においても保険適用が認められ、多くの医療機関で導入が進んでいますが、治療後の長期成績に関してはまだ十分な検討がされていません。

本研究では、当院における前立腺癌に対する寡分割照射の治療成績について、従来の照射法と比較し、その有効性及び安全性について検討します。

●研究の期間

研究機関の長の実施許可日から2025年11月30日まで

●研究の方法

日常診療時に得られる下記の《利用する試料・情報の項目》について調査します。

《利用する試料・情報の項目》

●試料：

●情報： カルテ診療情報より年齢、リスク分類、ホルモン治療有無・期間、併存疾患、フォロー期間、生存有無、再発有無

なお、利用する上記の試料・情報からはお名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報削除します。

《利用を開始する予定日》

研究機関の長の実施許可日

《利用する者の範囲》

●研究機関名および研究責任者名

京都第二赤十字病院 放射線治療科 部長 清水大介

《試料・情報の管理について責任を有する者の名称》

京都第二赤十字病院 院長

《試料・情報の利用の停止（受付方法含む）》

患者さん又はその代理の方が、この研究への参加（試料・情報を利用すること）にご協力いただけない場合は、以下の《問い合わせ先》にご連絡ください。研究にご協力されなくても、診療等において不利益を受けることはありません。ただし、ご連絡いただいた時期によっては、解析が完了している、結果が論文などで公表されているなどの理由であなたのデータを取り除くことができない場合がありますことをご了承ください。

《問い合わせ先》

研究機関：京都第二赤十字病院

担当者：放射線治療科 部長 清水大介

住所：〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355 番地の 5

TEL：075-231-5171（代表）